

Masayuki Fuchigami

# EUROPE

THE CONTEMPORARY

ARCHITECTURE

GUIDE VOL. 3

UNITED KINGDOM

FINLAND

空前絶後のシリーズついに完結!

## 『ヨーロッパ建築案内』

### 第3弾

話題の現代建築から古典建築まで必見の878作品を紹介。  
便利な主要都市MAP・都市別建築リスト付。

イギリス・北欧・東欧編：イギリス・アイルランド・フィンランド  
スウェーデン・デンマーク・ノルウェー・チェコ・ハンガリー・アイスランド

源上正幸＝著 ガallery・間＝編 定価＝本体 2,952円＋税

IRELAND

ICELAND

GALLERY・MA



# 12 PRINTING FACTORY IN SLAGELSE

Skovsvej 27, Slagelse, Denmark

スラゲルセの印刷工場

スラゲルセ 1999

Søren Robert Lund

ソーレン・ロバート・ルンド

Slagelse

紙折りのメタファーを表現したファサード

スラゲルセはコペンハーゲンの南西40-50kmの都市。「スラゲルセの印刷工場」は、近所に建物ほとんど見当たらないほどの広い郊外環境の中にある。建物は南北に長く延びて、東西に長い立面を構成している。メイン・ファサードは東側で黒い下見張りの低層部が高く横臥する中、その中央部あたりシルバーに輝く奇妙な形のマッサが突出している。

凹彫に清濁したファサードをもつこの部分は印刷部門、ワークショップ、コントロール室を内包している。折返した鉛鉛板で覆われたヴォリュームは、コーナー部が反り上がって斬りような鋭利性を見せる。しかも中央部に大きな亀裂がある。ソーレン・ロバート・ルンドによれば、この峡谷のような溝は、新聞紙を折たたむ折目であり、折り線をシンボライズしているという。

西側ファサードは全体的にクロードで開口部はほんのわずかしかない。紙がめくれ上がったような形も東側と同じだが中央の亀裂が浅く、顔の紋目も果たしているこの溝は、西側から東側へ向けて深くなっている。

蓋鉛板張りの中央部の南側は、メイン・エントランスを跨するオフィス棟で、レセプション、会議室、オフィスそれに倉庫がある。北側は梱包をするバックルーム、積荷場、カンティーン(食堂)などを含んでいる。

ルンドは遠慮になりがちな印刷工場を、形制的な意味での変化を外観に寓した。内部では新しい空間ヴォリュームから2次元的なデザイン処理にとどまっている。レセプションから印刷室への廊下に、アーティストを起用して大掛なスケーラグラフィックを試みている。また食堂への通路にも同じデザインを用いて内部空間に刺激を与えている。

延床面積4,800m<sup>2</sup>の印刷工場は、ルンドのデザインによって紙を折るという行為をメタフォリカル(比喩的)に表現したファサードをもった。かつてニコラス・グリムショーは「ファイナンシャル・タイムズ印刷工場」を設計したが、そこでは透明性による建築内部から都市へのメッセージの発信がテーマであった。ルンド特筆のデコンストラクションはわずかに垣間見えたが透明性へは至らなかった。



1 東側ファサード中央部の亀裂が一見デコンストラクション 2 東側ファサードを西側から見る 3 レセプションから印刷室への通路 4 キャンティーン(食堂)への通路にもスケーラグラフィックがデザインされている



1st Floor Plan



Sketch